

旭川野外彫刻マップ

たんざく

旭川彫刻サポート隊
2020年版

旭川は「彫刻のまち」と呼ばれ、街中や公園に約100基の野外彫刻があります。四季折々の自然の中、地図を手に「彫刻」に会いにでかけてみよう。新しい風景がみえてくるかもしれません。

歩いて観よう!

● 見つけた彫刻をチェック☑しよう。

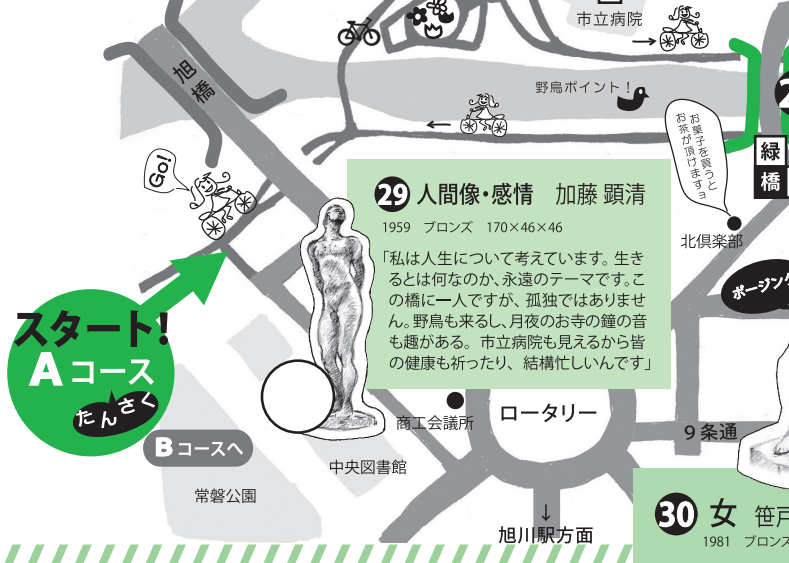
どうしてたくさんあるの

旭川が「彫刻のまち」となった原点には彫刻家・中原悌二郎★(なかはらていじろう)の存在があります。悌二郎はロダンの影響のもと優れた作品を制作し、32歳の若さで亡くなりましたが、その作品は日本の近代彫刻史において重要な位置を占めています。1962年、加藤頭清らの尽力によって悌二郎の作品が帰郷を果たしたことから、旭川は「彫刻のまち」としての歩みをはじめ、1970年には中原悌二郎賞★を創設して優れた作品の収集につとめます。1972年、日本初の歩行者天国として注目を集めた買物公園に彫刻を設置し、その後も公園、広場、橋など身近な都市空間の中で彫刻に親しめる街づくりを進めたことから「行政が彫刻と積極的にかかわる先駆的な役割を果たしているまち」という認識が全国に広がりました。1994年には旭川市彫刻美術館が開館し、2000年にスタートした彫刻フェスタ★では公開参加型制作によって、作家と市民が直接出会う新たな場を創造しています。こうした長年の活動が実を結び、現在では彫刻美術館、道立旭川美術館、北海道療育園など市内各所で彫刻を見ることができ、「彫刻のまち」となりました。2002年には野外彫刻の清掃活動を行うボランティア組織・旭川彫刻サポート隊★が発足し、彫刻ファン্ড市民の会など市民の自発的な彫刻との関わりが広がり、私たちの暮らしの中に彫刻が溶け込んでいます。このマップの制作もその一つです。



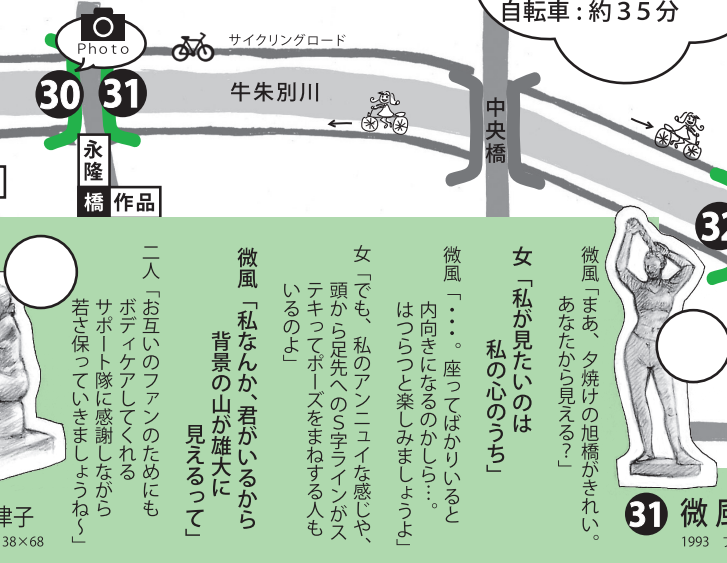
A 牛朱別川橋エリア

旭橋から緑橋へ抜けると、昭和レトロな風景が広がる牛朱別川河川敷が続き、6本の内4本の橋に彫刻が設置され、水音をBGMに橋越しにも彫刻の姿が堪能できます。晴れた日には大雪山系が一望できる絶好のビュースポット。



たんざく モデルコース CR: サイクリングロード

常磐公園 → 旭橋下CR → 牛朱別川CR → 緑橋 → 永隆橋 → 日之出橋 → 新成橋 → 牛朱別川CR戻り → 常磐公園
旭川駅 → 常磐公園 (徒歩: 約20分、自転車: 約15分)



野外彫刻の楽しみ方

★四季の中で
野外彫刻は、季節や天候、時の流れによって印象が大きく変わります。近くから見た作品を、近くでも眺めてみよう。周囲の音や光、季節の匂いも感じながら

★触ってみよう
展示会では作品に触ることはできませんが野外彫刻は大丈夫。晴れた日は金属はあたたかく石はひやりひやりしています。素材の手触りや作品の大きさを体感しよう。

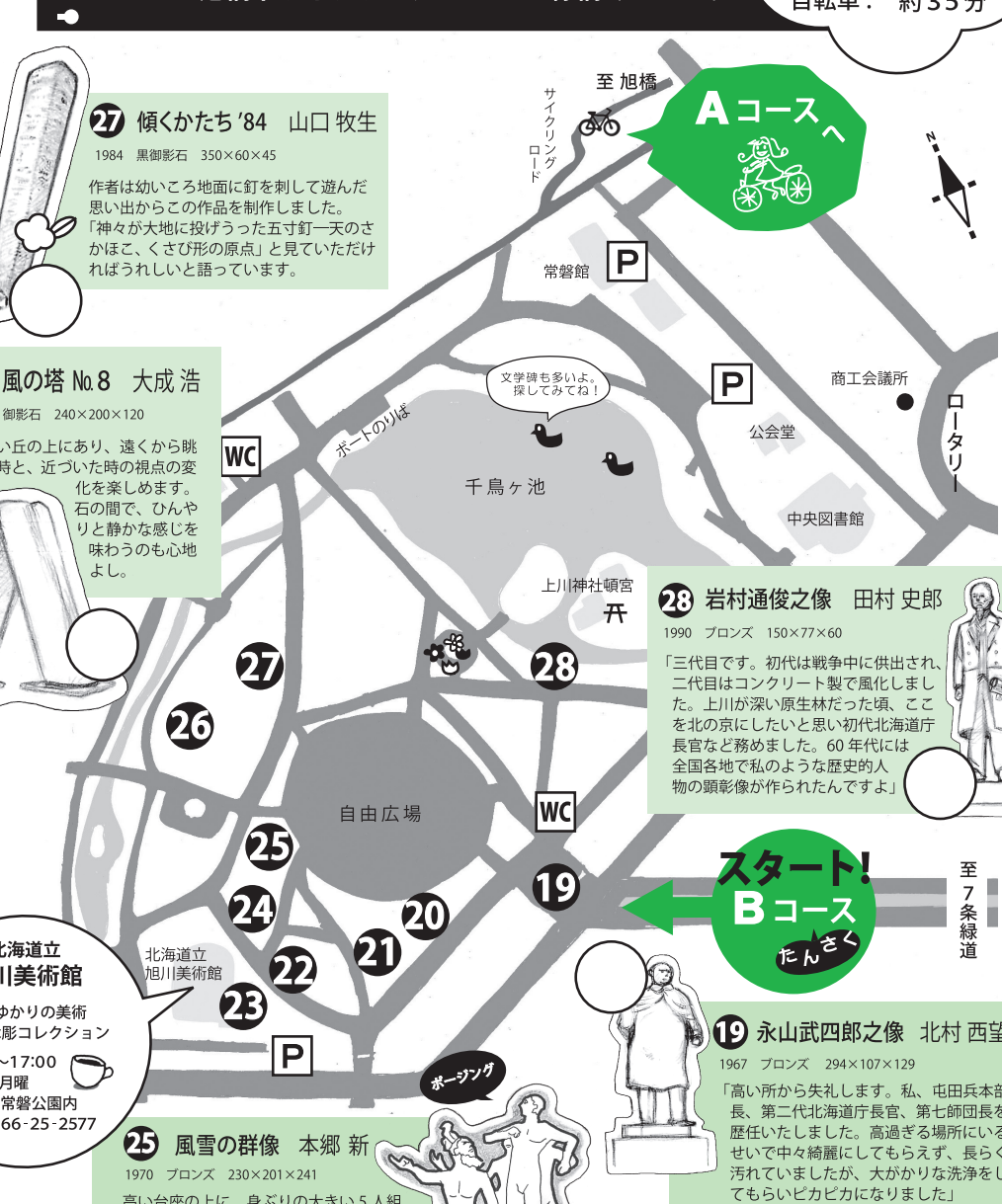
★やってみよう
モデルや作者の気持ちになってポーズを真似てみよう。
写真を撮ろう。どんなアングルがいいかな? 会話してみよう。彫刻の吹きや会話を想像して物語を作ってみよう。

★調べてみよう
美術館や図書館で作家や作品の事を知ろう。全国各地に作品が点在しているよ。

- 29 人間像・感情 加藤頭清
1959 ブロンズ 170×46×46
- 30 女 笹戸千津子
1981 ブロンズ 98×38×68
- 31 微風 笹戸千津子
1993 ブロンズ 213×80×50
- 32 裸婦 木内克
1961 ブロンズ 180×101×52
- 33 裸婦 木内克
1968 ブロンズ 89×39×37.5
- 34 単の碑 山内壮夫
1957 ブロンズ 83×120×43
- 35 風の中の母子像 山内壮夫
1955 ブロンズ 153×42×30

B 常磐公園エリア

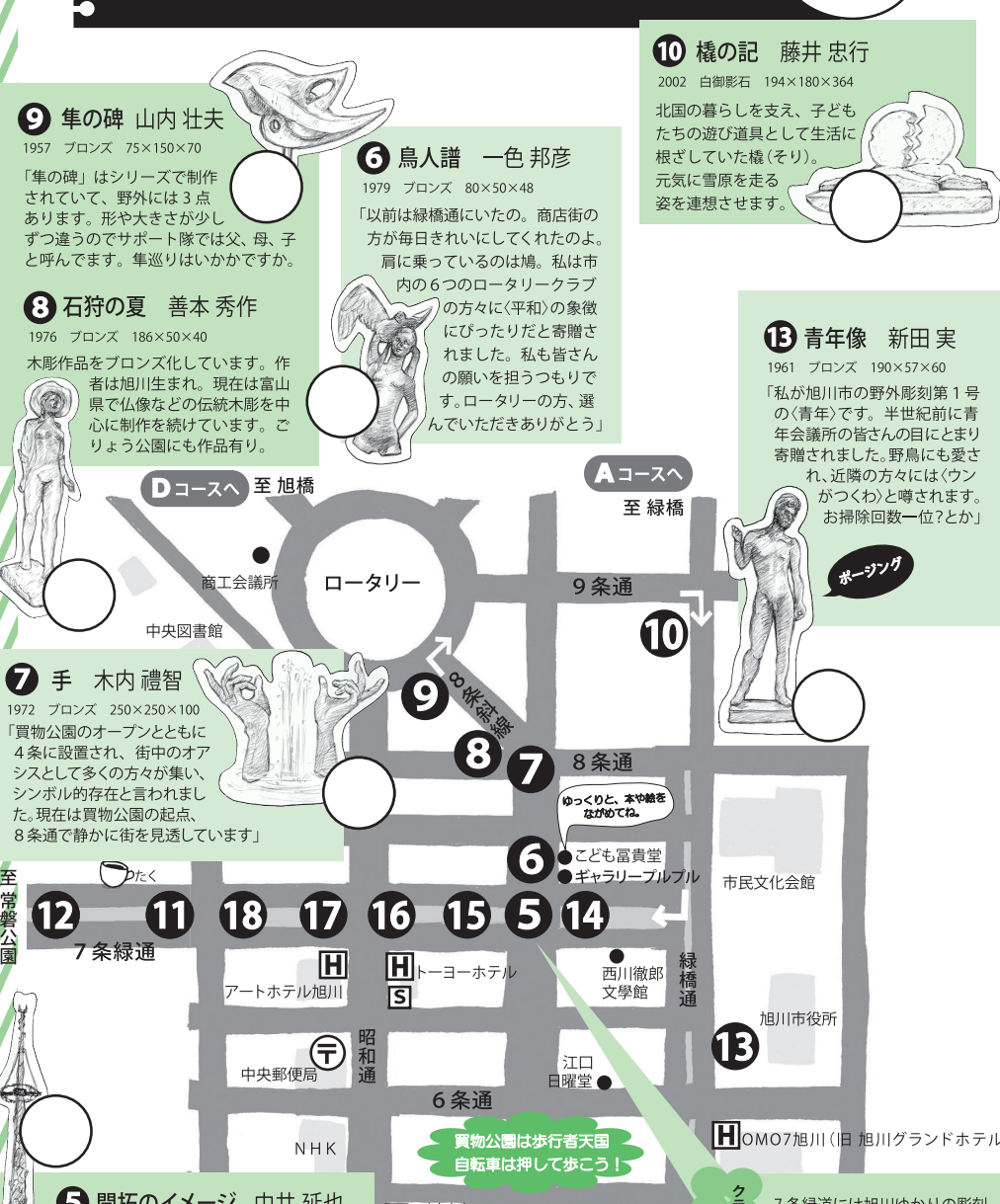
旭川美術館、中央図書館、旭川文学資料館などがあり、広場を中心に10基の彫刻が配置されています。
春は桜、夏はポピー、秋は紅葉、冬はダイヤモンドダストと四季の変化の中で眺める彫刻は、まるで映画のワンシーン。隣接する「石狩川と旭橋」の景観は北海道遺産に指定され、河川敷は花火大会や冬まつりで賑わいます。川沿いのサイクリングロードにも足をのびてみてはいかがでしょうか。



- 26 風の塔 No.8 大成浩
1987 彫刻石 240×200×120
- 27 傾くかたち '84 山口 牧生
1984 黒銅彫石 350×60×45
- 28 岩村通俊之像 田村 史郎
1990 ブロンズ 150×77×60
- 29 人間の森 0.ザッキン
1997 ブロンズ 230×120×80
- 22 行列 三木俊治
1989 ブロンズ・コルテン鋼 300×600×150
- 20 生きる 空充秋
1989 青銅石 435×300×130
- 21 地 空充秋
1984 白銅彫石 150×250×120
- 23 雄弁
1963 ブロンズ 355×300×88
- 24 人間の森 0.ザッキン
1997 年、西武アートがオープンを記念して旭川市に寄贈しました。人が重なりあてて天にエネルギーを発しています。設置当時のワーと勇氣を街中に!と願いをこめてお手入れしています。

C 買物公園エリア

日本初の歩行者天国として1972年にオープンした旭川の中心商店街。当初より多くの彫刻が設置され市民に親しまれました。人々の暮らしの中心に彫刻を置いた先駆的な取り組みとして注目を集め「彫刻のまち」のイメージを全国に発信したエリアです。2002年のリニューアルにともない彫刻の再配置が行われ、現在の形になっています。



- 1 若い女 佐藤忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
- 2 サキソフォン吹きと猫 黒川見彦
2001 ブロンズ 103×210×150
- 3 希望 笹戸千津子
1989 ブロンズ 高150
- 4 若い女・夏 佐藤忠良
1972 ブロンズ 149×75×51
- 5 開拓のイメージ 中井延也
1972 鉄(コルテン鋼) 2100×85×85
- 6 鳥人譜 一色邦彦
1979 ブロンズ 80×50×48
- 7 手 木内禮智
1972 ブロンズ 250×250×100
- 8 石狩の夏 善本秀作
1976 ブロンズ 186×50×40
- 9 単の碑 山内壮夫
1957 ブロンズ 75×150×70
- 10 橋の記 藤井忠行
2002 白銅彫石 194×180×364
- 11 人間
1951 ブロンズ 172×63×53
- 12 母子像
1963 ブロンズ 170×37×41
- 13 青年像 新田実
1961 ブロンズ 190×57×60
- 14 婦人像・裸立像
1938 ブロンズ 164×45×39
- 15 婦人像・着衣
1964 ブロンズ 170×41×36
- 16 男子座像
1965 ブロンズ 100×80×65
- 17 思惟像
1961 ブロンズ 95×45×110
- 18 人間像・青年
1960 ブロンズ 170×37×41
- 19 永山武四郎之像 北村 西望
1967 ブロンズ 294×107×129
- 20 雪風の群像 本郷 新
1970 ブロンズ 230×201×241
- 21 雄弁
1963 ブロンズ 355×300×88
- 22 行列 三木俊治
1989 ブロンズ・コルテン鋼 300×600×150
- 23 雄弁
1963 ブロンズ 355×300×88
- 24 人間の森 0.ザッキン
1997 ブロンズ 230×120×80
- 25 風雪の群像 本郷 新
1970 ブロンズ 230×201×241
- 26 風の塔 No.8 大成浩
1987 彫刻石 240×200×120
- 27 傾くかたち '84 山口 牧生
1984 黒銅彫石 350×60×45
- 28 岩村通俊之像 田村 史郎
1990 ブロンズ 150×77×60
- 29 人間の森 0.ザッキン
1997 ブロンズ 230×120×80
- 30 女 笹戸千津子
1981 ブロンズ 98×38×68
- 31 微風 笹戸千津子
1993 ブロンズ 213×80×50
- 32 裸婦 木内克
1961 ブロンズ 180×101×52
- 33 裸婦 木内克
1968 ブロンズ 89×39×37.5
- 34 単の碑 山内壮夫
1957 ブロンズ 83×120×43
- 35 風の中の母子像 山内壮夫
1955 ブロンズ 153×42×30